1 自己評価及び外部評価結果

（ユニット名　　2ユニット　　　）

事業所番号	0272300971
法人名	(有)博愛会ケアサービスセンター
事業所名	グループホーム　テレサ苑
所在地	青森県南津軽郡藤崎町大字林崎字宮本67番地1
自己評価作成日	平成22年9月17日
評価結果市町村受理日	平成23年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。（↓このURLをクリック）
（公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号　県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「もう歳だから」「わからない、できない」と諦めず、少しの援助で「できるかも、やってみるかな」と興味や意欲が沸き、自発的な関わりで「できる」自信を持って頂けるように可能性を引き出す雰囲気作りに努めています。 入居者様お一人ひとりのペースや個性に合わせた援助を心がけ、<明るく、頭を使って、諦めない>スリーAの精神で、進行や寝たきり予防に取り組み、楽しみや生きがいを増やせるように、また地域や世代間交流機会を持ち、関わるすべての人と協同できるような関係作りに努めています。一昨年保護された二匹の猫も癒し効果を発揮しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1．ほぼ全ての利用者の
			2．利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1．毎日ある
		○	2．数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている　（参考項目：38）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1．ほぼ全ての家族と
		○	2．家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1．ほぼ毎日のように
		○	2．数日に1回程度
			3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1．大いに増えている
		○	2．少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1．ほぼ全ての職員が
		○	2．職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1．ほぼ全ての家族等が
		○	2．家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心できる生活を提供するため、認知症への理解を深めるためには、地域の方と協同できる体制にあることが不可欠であり、日頃の関わりやご縁を大切にしています。理念、運営方針は掲示し、常に実現に向けた丁寧な対応やサービス提供を心がけています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や活動には積極的に参加し、散歩などでも気軽に話しかけられるように努めています。苑周辺の方からは旬の野菜やりんごを毎年頂き、夏祭りは主催側として、また研修センター管理の一部を担うなど、協同できるように努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居宅事業所、デイサービスが併設され、ショートステイ機能も付加されたことから、トータル的なケアができるように努め、社会交流など活動状況は苑便りとして回覧しています。リサイクルを活用して、毎年幼稚園へ絵本をプレゼントしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月定期的に行い、頂いたご意見はサービスに活かされるように努めています。ご家族にもより一層の理解と協力を依頼し、テーマに沿った様々な関係者様にもご意見を仰ぎ、地域が支え合う社会作りができるように活性化に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政も参加する地域密着型サービス事業所の意見交換会を隔月で開催しており、困難ケースの相談や緊急の受け入れなど必要に応じた連絡をし地域行事への参加等協力し合える体制にあるように努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	**○身体拘束をしないケアの実践** 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	安全の見守りを行い身体拘束は如何なる場合もしていません。日光浴をしたり、花壇の手入れや散歩に出掛けたりと閉塞感のないように工夫しており、玄関の施錠はご家族や行政の理解が得られていますが、入居者様の心理的な影響を考え、今後も施錠しない環境整備に努めます。		
7		**○虐待の防止の徹底** 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	理解が深められるように資料を用意し、言葉遣いや接し方など誤解を与える対応や言動には職員同士が意見し合えるように努めています。また、個別に面談する機会を設け、ストレスの原因を探るなど、職員が過度の労働にならないようにシフト変更など体制作りに努めています。		
8		**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修資料はいつでも閲覧できるようにしていますが、内部、外部研修はまだ受けていない職員もいます。今後制度を必要とされる方がおられ、実践に沿ってより身近に必要性や活用法など理解できる機会を得たいと考えます。		
9		**○契約に関する説明と納得** 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にご本人も含む見学や訪問を行い、十分な時間を取り説明、書面にて同意を得ています。入居後も、疑問、不安は気軽に相談して頂けるように努めており、改定の際は要点をわかり易く説明し解約時には関係機関との連絡調整を行っています。		
10	(6)	**○運営に関する利用者、家族等意見の反映** 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族の意見を反映できるようにコミュニケーションに努めています。来苑されるご家族の意見や要望は管理者はじめ全職員と共有できるようにし、思いやり箱へのご意見も含め代表者へも報告しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の気付き、アイディア以外に、職員会議やユニットカンファレンス等で話し合う機会を持ち、個々の意見や提案が活かされるように代表者にも伝えています。全員が気軽に話し合える関係であることを目標にしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はキャリアパス要件を定めています。個別の意見は管理者を通して伝えていますが、代表者と職員が個別に、また全員で話し合う機会はなかなか得られていません。職場環境をより整備し、モチベーションを高められるように職員は協同に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員がスキルアップできるように、個別に適した外部研修に参加するなど育成計画を策定しています。また、興味を持つ内容の受講機会が得られるようにシフト調整しています。内部研修は、全体で行える機会を増やせるように努めます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域密着型サービス事業所の意見交換会が行われており、本年度は司会進行役としても参加しています。藤崎町のネットワーク会議や、その他研修などにも出来る限り参加するようにしていますが、今後は全職員が地域の同業者と交流できるようにしたいと思います。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や面接、訪問などを行い、不安を受け止めながら、これまでの生活やご本人の思いを知るように努め、できる限り要望に沿えるように、入居される前にも話し合いの場を設けて信頼関係が深められるように努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		**○初期に築く家族等との信頼関係** サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約以前に自由に見学や質問をして頂き、ご自宅や入院されている病院に出向くなど、よりご本人の思いや家族の意向を確認できるように努めています。		
17		**○初期対応の見極めと支援** サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅サービスの内容やご様子は担当ケアマネージャー、医療ソーシャルワーカーなど担当者との情報交換を行っており、より現状の理解に努めています。また、必要時には各関係機関への連絡調整を行っています。		
18		**○本人と共に過ごし支えあう関係** 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの得意分野が活かされ、喜びや注目が受けられるような雰囲気作りに努めています。入居者様同士、また、職員が互いに不得意を補い合いながらより相手を理解し協同関係が築けるように努めています。		
19		**○本人を共に支え合う家族との関係** 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の事情にも配慮しながら、関わる全ての方が協同できるように連絡調整に努めています。近況報告他、入居者様のご様子によっては面会を依頼するなど協力して頂けるように連絡しています。		
20	(8)	**○馴染みの人や場との関係継続の支援** 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	医療機関をはじめ、理美容や買物、銀行、以前の住まいなど、馴染みの場所に継続して行けるように支援しています。来苑される方を歓迎し、ご家族や関係者、ボランティアの連絡調整を行っています。		
21		**○利用者同士の関係の支援** 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話や共同作業では、個性を引き出しながらそれぞれの優しさや思いやりが伝わるようにさりげなく介入しています。 他者の言動に誤解や不快が生じないよう注意し、孤立を避けられるようにテーブル配置等工夫しています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後であっても気軽に立ち寄って頂けるように、近況を尋ねたり転居先を訪問したり祭りの案内を送ったりとご縁を大切にしています。 退去された方のご家族や関係者を通した相談も増えています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを受け止められるように、職員それぞれが個性を活かしたコミュニケーションで情報を得て、より正確に理解し、判断できるように都度話し合っています。把握が困難な場合は、ご家族にも報告、相談しながら可能な範囲は協力が得られるように努めています。		
24		**○これまでの暮らしの把握** 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報やアセスメントから過去の情報を把握し、話題を提供しながら新たな情報が得られるような会話に努めています。ご家族のプライバシーにも配慮しながら信頼関係を築き、よりご本人の価値観や人生観の理解、望む生活の把握に努めています。		
25		**○暮らしの現状の把握** 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック他、体調確認など変化を見逃さないように情報を共有し、悪化予防に努めています。 また、一人ひとりが自分のペースやその日の体調、気分に合わせた過ごし方ができるように自立支援に努めてます。		
26	(10)	**○チームでつくる介護計画とモニタリング** 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の協力が得られないケースや、新人職員の理解、協働はまだ十分ではありませんが、チームワークを重視しており、意見やアイデアを日々出し合って、本人らしさが発揮されるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		**○個別の記録と実践への反映** 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	それぞれの気付きが実践に活かされるように、 ミーティングや申し送りの他、変化は都度口頭で伝えた上で、ユニットの日誌や申し送りノート、医務ノートを使用して情報を共有、再確認できるようにしています。		
28		**○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化** **（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載）** 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		**○地域資源との協働** 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月の歌唱指導などボランティアの活用、幼稚園児との世代間交流の機会を定期的に持ち、町や社協、学校のイベントなどに参加する機会を提供し、生活が単調にならないように日常の活性に努めています。		
30	(11)	**○かかりつけ医の受診支援** 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつでも希望する医療機関を受診できる体制にあります。また、必要性はご家族とも相談し病状に応じた専門科受診できるように努めています。		
31		**○看護職員との協働** 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜の訪問看護師による健康管理、生活指導を行っており、その都度報告相談して助言を受けています。必要に応じて医療機関との連絡調整を協働しており、休日深夜を問わず24時間オンコール体制にあります。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	看護、介護サマリーで情報提供を速やかに取り交わすよう心がけています。また、面会等で入院後の経過の把握に努め、早期に帰苑されるように、2ヶ月が経過しても適宜対応できるように心掛け、ご本人や遠方に暮らすご家族の安心が得られるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	様態の変化を職員全員が把握できるように記録し、現状に即したきめ細かい対応に努めています。時間経過を大事にしてご本人、ご家族の満足が得られるように、できる限り努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応はマニュアル化し、初期対応は可能と思われますが、新しい職員への社内研修はまだ行われていないません。実践力を身に付けるため、救命救急講習会などに順次参加できるように努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は夜間も想定して消防署の指導を受けながら年2回実施しています。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修資料を用意し、ミーティングなどで対応上の問題点を話し合い、意識向上に努めています。個人情報の漏洩防止は、個々の認識を高めるために入職時には同意書を取り交わしています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表現し易いように助言を加えて、好みに合った物を選択して頂けるように、表情などからも思いを確認しています。日頃の何気ない会話の中に表れる思いも汲み取れるように、全職員の気付きを大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴など一人ひとりのペースに合わせています。外出などは全体的な優先順位からすぐには対応できない場合もあるが、説明しお詫びした上で理解を求め、その後の実現に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧やおしゃれ着のスカートの着用を勧め、季節や状況に合った選択ができるように助言しています。個別に希望される理美容店を利用できるように支援していますが、経済面や身体的負担がある方にはボランティアの訪問も検討しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の準備、片付けは能力に応じて入居者様、職員が協同しており、手作りのおやつも取り入れています。献立以外に個別に嗜好に合った物を取り入れたり、外食機会が持てるように家族にも協力を仰いでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は個別に把握しており、必要に応じて補食を勧めるなど、栄養保持、食生活管理全般を支援しています。食の楽しみが得られるよう嗜好にあった買物、外食も支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科受診の際にはご本人にも指導してもらい、歯磨きや義歯洗浄は毎食後、就寝前に一人ひとりの能力や習慣に合わせた援助法で行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿意の維持、失敗による気分低下を予防するため、排泄チェック表を用いて個々の排泄パターンに応じた声がけや誘導、介助を行っています。 排泄用品の必要性についてはその都度ご家族とも話し合っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が可能となるように、個別に乳製品や食物繊維を取り入れるように常に工夫しています。プライド保持できるように配慮しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	必要に応じて個別に入浴日を設定しています。週3回を基本として、ご本人ご家族とも話し合った上で決めています。 時間はその都度、希望や体調などに合わせて相談しており、状況に応じたシャワー浴や清拭、足浴を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝たきりや時間の失見当を予防するため、日中は離床をモットーとしますが、体調に合わせ、個々に休息の時間を取られています。 自然入眠、覚醒が得られるように、コミュニケーションを重視して個別の就寝ケアを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チェックミスを防げるように複数の職員が確認し、手渡す際も日付、名前など復唱してご本人にも確認して頂いています。変更や臨時薬に関しては、その都度申し送り、詳細はすぐに確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の共同作業の他、個々の力が発揮され自信や達成感が得られるように、お一人ひとりの活躍の場を作るように心がけています。同時に気軽にお礼が言える雰囲気作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や嗜好品の買物など、希望に合わせて出来る限り応じていますが、車両の都合などその日の希望には添えない場合もあり、ご本人に説明、了解を得た上で、ご家族の協力も仰ぎながら計画し、実現できるように最大限努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	銀行の入出金や通帳管理を一部介助、出納帳記入に詳細を記入し説明を加えています。自己管理に不安のある方は、ご本人ご家族とも相談の上、金銭や財布を金庫に預かり、外出や買物の際はご本人が所持し、使用できるように援助しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特別な事情がない限りは、希望するやり取りが自由にできるように援助しています。絵手紙や年賀状の作成なども取り入れていきたいと思っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	蛍光灯、白熱灯を使い分け、好みに応じた明るさに調整するなど不快のないように努めています。玄関には椅子として使用できる花台があり、観葉植物や花を育てており、苑内は絵画、写真等を飾って居心地の良い空間作りに努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	寛いだ雰囲気で語らいだり、活動できるように談話室他、廊下ベンチ等を活用しています。苑庭にもテーブルや椅子を手軽に設置でき、日光浴や軽食を楽しんでいます。また事務室ソファや喫煙所で独りの時間を過ごせるように工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前に馴染みの物の効果を説明してご家族に協力を仰いでいます。事故予防のため設置が困難な場合も、一人ひとりの好みや安全面に配慮した部屋作りができるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの持てる力が活かされるように、安全面や、介助法にも都度工夫を加えています。 トイレや居室の間違いがないように工夫し、トラブル予防の見守りをしています。		